

令和2年度第1回青森市自動車運送事業運営審議会 会議概要

- 【日 時】 令和2年6月30日（火）10:00～11:15
- 【場 所】 青森市福祉増進センター（しあわせプラザ） 3階 大会議室
- 【出席者】 井上隆会長、柳谷章二副会長、葛西房子委員、神山昌則委員、竹山美虎委員、千葉敏彦委員、藤原浩平委員、平岡弘志委員、竹内慎司委員、船木久義委員
- 【欠席者】 なし
- 【事務局】 中川公営企業管理者、赤坂部長、工藤次長、今課長、菅原主幹
- 【会 議】 (1) 「経営戦略」検討スケジュールについて
(2) 青森市自動車運送事業における経営課題について

会議概要

(1) 「経営戦略」検討スケジュールについて

資料に基づき事務局より説明。

《質疑応答等なし》

(2) 青森市自動車運送事業における経営課題について

資料に基づき事務局より説明

○委員

運賃箱について、将来的に磁気カードを廃止し、決済手段を変更することについて、例えば何年までには着手するとか青写真はるか。

○事務局

次期計画の中に運賃箱の更新時期を迎えることとなるが、本日は課題の整理であり、それを具体的にどのようにするというのは、今後のワーキンググループ（以下：WG）及び運営審議会で検討していくこととしている。

○委員

運転乗務員は正職員の退職者不補充をずっと継続してきたということだが、いわゆるやる気、やりがいといったものを含めて、もうそろそろ職員採用を始めないと、職員の年齢バランスもおかしくなっていると思うので、もし現段階の考えがあれば教えて欲しい。

○事務局

経営状況により退職者不補充という形で経費を抑制してきたが、今後も退職者不補充を続けたとしても、赤字幅は減るものの、依然として赤字となるシミュレーションになっている。本日は経営課題の整理のため、今後のWG及び運営審議会で検討していくこととなる。

○委員

新型コロナウイルス(以下:コロナ)については、全国的にも大変な事態になっており様々な形での自粛が求められたりしているが、この3月～6月、バスの乗客の数など実態はどうなっているか。あるいは運転士の健康管理はどうか。また、お客さんと運転士が一緒に乗って移動するため、感染防止上の配慮はどのようにしているか。

○事務局

昨年度の乗車状況と比較すると、3月は2割ほどの減になっており、今冬は暖冬小雪という別要因があるため、純粹にコロナの影響かというのは読めないところ。4月は3割超の減少、6月には、減少は2割程度までというところまで回復してきている。

乗務員の健康管理は、コロナが出始めた際、いち早く乗務員のマスク着用、手洗い消毒を3月から徹底して対応してきた。乗務員控室も密にならないよう、休憩時間も配慮し、分散して休憩する体制にしてきた。

バス車内の感染防止上の配慮については、バスの乗務員に一番近い乗務員の後ろの席はご遠慮いただくという対策と、乗客の降車の際、ビニールカーテンを設置するなどの対策を行っている。

○委員

今年は、ねぶたが中止、弘前の花見もダメ、さまざまなイベントもほとんど軒並み中止となり、コロナの流行が来年にかけても心配されている中で、市営バスの経営上にも大変な影響が出るのではないかと。根拠をもって予測を示すことはできないと思うが、今後の経営にかかわる問題として、どのように受け止めているか。

○事務局

現在、利用者数は減少しているような状況で、首都圏に比べると減少幅は少ないが、一定数の減少幅はあるため経営に影響があると思われる。ただ、コロナを踏まえると乗客を増やすということはなかなか至難の業だと思っており、お客様が心配せずご利用いただけるよう、今後もコロナ対策を徹底するということが現段階では重要と考えている。

○委員

10月の会議で、女性運転手の採用ということで質問した際、今は2名女性運転手がいる

ということだが、再任用や嘱託の採用により、ある種の給与水準を抑え込むという方法はいいが、働き方改革の時代なので、女性運転手の登用を3分の1くらいはしてほしい。女性運転手の採用により、かなり職場の雰囲気も変わる。雇用するにあたり、女性の場合、勤務時間の制約など、男性職員と全く同じような勤務条件ができるかという話も聞くことがあるが、再任用の採用を少し変化させて、女性特有の条件を少し取り入れ、労務問題を積極的に考えていく余地がないものか。

○事務局

女性の社会進出の団体や、ハローワークにも相談し、短時間のパートタイムでも構わないということで、女性の募集もしているが、なかなか応募には結びついていない状況である。

○委員

民間の経営では、正規の社員と、非正規の社員という言い方をするが、基本的に私は経営者として、非正規の人であっても時間給で見たときには、正規とほとんど変わらない給与体系で非正規の人を採用していきなさいという方向でやっている。勤務時間など、待遇的に悪くならないような形の勤務で、非正規を上手に取り入れて、事業を実施していく時代だと思うので、ぜひ、女性に限らず、労働条件というものについて、柔軟な考えで検討し、併せてトータルで考えていただきたい。

○委員

実は、ドライバー業界は女性の比率が低く、建設業界の構成を調べたことがあるが、建設業界に比べても、ドライバーの女性の比率は低い。そのため、青森県のトラック協会でも、女性ドライバーを増やすよう、女性ドライバーの環境の整備について検討している最中である。そういうことを横目で見ながら、少し真剣に取り組んでもらえればよい。

○委員

赤字路線がこれだけあるので、一定の基準、分類をして、運行の形態を区別、選別していくことの検討は必要ではないか。例えば、公営ではない第三者にお願いする、赤字路線分を別途に補助する仕組みを何か考える、スクールバスに切り替えるなど、考えてもいいのではないか。

○事務局

全体の路線の話になると思うが、公共交通網形成計画の路線を維持しているということで、チャレンジプランに取り組んでいる。具体的なものについては、今後のWG及び運営審議会の中で、具体的に議論していくことになるかと思う。

○委員

路線や、系統ごとに何らかの基準を設けて将来的には廃止などを考えなければいけないぐらいの厳しい状況の路線や系統はたくさんあると思っており、その辺も検討課題として考えていただければと思っている。あくまでも検討課題だが、ずっと、維持していくわけにはいかない路線あるいは系統があると思っている。